

ミニトマト病害虫防除暦

令和6年度(2024) JA庄内たがわ

防除体系(登録薬剤)

2024.1.1時点の農業登録情報をもとに作成

防除時期	対象病害虫	登録農薬名	使用量及び希釈倍率	水100ℓ当たり 薬剤量	使用時期	使用回数	RAC コード	備考
育苗～定植時	アブラムシ類・コナジラミ類・ハモグリバエ類、アザミウマ類	ベリマークSC※	400株当たり薬剤量25ml	400株当たり 水10～20ℓ	育苗期後半～定植当日	1回	I:28	育苗鉢に 灌注
定植時	殺虫 アブラムシ類・コナジラミ類	ベストガード粒剤	1～2g/株	-	定植時	1回	I:4A	植穴処理 土壌混和
	殺虫 ハモグリバエ類		2g/株	-				
	殺虫 アブラムシ類・コナジラミ類	アドマイヤー1粒剤	1～2g/株	-	定植時	1回	I:4A	植穴土壌 混和
生育期	殺菌 うどんこ病・灰色かび病	ハーモメイト水溶剤 (野菜類で登録)	800倍	125g	収穫前日まで	-	F:NC	散布
	殺菌 うどんこ病・灰色かび病	ボトキラー水和剤 (野菜類で登録)	1000倍	100g	発病前～発病初期	-	F:BM2	散布
	殺菌 うどんこ病・灰色かび病・葉かび病	カリグリーン	800倍	125g	収穫前日まで	-	F:NC	散布
	殺菌 うどんこ病・すすかび病・灰色かび病・葉かび病・斑点病	ベルコートフロアブル	4000倍	25ml	収穫前日まで	2回以内	F:MO7	散布
	殺菌 葉かび病	トリフミン水和剤	3000倍～5000倍	20～33g	収穫前日まで	同一成分に つぎあわせて 5回以内	F:3	散布
	殺菌	トリフミンジェット(劇)	50g/くん煙室容積400m ³	収穫前日まで	くん煙			
	殺虫 オオタバコガ・コナジラミ類・トマトサビダニ・ハスモンヨトウ・マメハモグリバエ	カスケード乳剤	4000倍	25ml	収穫前日まで	2回以内	I:15	散布
	殺虫 アブラムシ類・コナジラミ類・アザミウマ類	ベストガード水溶剤	1000倍～2000倍	50g～100g	収穫前日まで	3回以内	I:4A	散布
	殺虫 トマトサビダニ・ナミハダニ・ミカンキロアザミウマ・オオタバコガ	コテツフロアブル(劇)	2000倍	50ml	収穫前日まで	3回以内	I:13	散布
	殺虫 コナジラミ類・ミカンキロアザミウマ	モスピランジェット(劇)	50g/くん煙室容積400m ³	収穫前日まで	同一成分に つぎあわせて 3回以内	I:4A	くん煙	
	殺虫 アブラムシ類・コナジラミ類・アザミウマ類	モスピラン顆粒水溶剤(劇)	2000倍	50g			収穫前日まで	散布
殺虫 コナジラミ類・トマトサビダニ・ハモグリバエ類	コロマイト乳剤	1500倍	66ml	収穫前日まで	2回以内	I:6	散布	
野菜類で登録 (施設栽培)	コナジラミ類	ラノーテープ	10～50m ² /10a	-	栽培期間中	1回	I:7C	-

使用時期	使用目的	登録農薬名	希釈倍数	使用時期	使用回数	
植物成長調整剤	着果促進	トマトーン	低温時(20℃以下) 50倍 高温時(20℃以上) 100倍	開花前3日～開花後3日位	1花につき1回	

※RACコードとは薬剤(殺菌・殺虫・除草をそれぞれ)の系統を分けたものであり、同じ系統の剤を連続して使用しないことで薬剤の効果を持続させる場合などに使用します。

留意事項

※使用時期の「収穫の前日まで」とは、薬剤散布を終了した時刻より24時間を経過するまで、収穫出来ないことを示します。

※ベリマークSCの使用例:ミニトマト苗400株処理の場合、ベリマークSCの薬液25mlを水20ℓに希釈し(約800倍)、株当たり50ml灌注する。その後定植。

※10a当り(300坪)の散布量は生育に応じて100～300ℓを目安とする、但し、ボトキラー水和剤及びハーモメイト水溶剤は150～300ℓとする

適正管理について!

- 病害虫の発生状況・予察に留意しながら予防・発生初期防除を心がける。
- 園地の適正な排水管理を行う。
- ドリフト軽減ノズルや防薬ネット等を出来る限り使用する。
- みつばちへの配慮を行う。
- 環境ホルモン等人体への悪影響が疑われる農薬の使用は控える。

防除器具の農薬残留に留意!!

- 防除器具は、前回散布後に充分洗浄したか確認し、散布当日も薬剤調整前にもう一度通水し洗浄しましょう。
- 防除器具は使用後、通水で3回以上洗浄しましょう。
- 洗浄水は川や下水等に流さないようにしましょう。